



立命館アジア太平洋大学プロGRESS・レポート 2000年 特別号

立命館アジア太平洋大学

PROGRESS REPORT





いよいよ立命館アジア太平洋大学が 始動いたしました

二〇〇〇年四月、アジア太平洋の未来創造に心を燃やす国内外の精鋭の学生を集めて、いよいよ立命館アジア太平洋大学が開学いたしました。五月二十日には、立命館学園創立百周年記念式典と結合いたしましたの開学式典も、国内外の多くのご来賓をお迎えして盛大に終え、大学は順調に動き始めております。

この間、日本で初めての本格的なこの国際大学の開学のために、多大の励ましと支援を惜しまれなかったアドバイザリー・コミッティの皆様方をはじめ、多くの国内外、各界、各方面の関係の皆様方に、改めて、厚く御礼と感謝を申し上げます。

立命館アジア太平洋大学は、この四月、二十八の国と地域から、二百五十名の国際学生を含む七百十九名の第一期生を迎えました。さらに十月には、約百五十名の国際学生を迎え、学生数の約半数にあたる一学年四百名の国際学生を擁する国際大学となります。十月には受け入れ学生の出身地は四十の国と地域を超えることになるでしょう。

入学した学生諸君の勉学意欲は、私共の期待に違わず、国内外問わず、きわめて旺盛なものがああります。とりわけ、国際学生諸君の勉学意欲の高さは目を見張るものがあります。二十八という多様な国と地域から学生達が集ってきていることは、彼ら彼女らの意欲をより一層高めている重要な要因となっております。このような新しい環境の中で、日本の学生諸君たちも、日本の他の大学にはない刺激を受け、外国からの学生諸君と競い合って、日々意欲の高い勉学生生活を進めております。

また、キャンパスでは多様な文化を担った世界の若者が行き交い、まだ始まったばかりとはいえ、文字通りマルチカルチュラルな大学コミュニティが出来上がっています。

こうして、世界の多様な文化が日常的に交流するこの立命館アジア太平洋大学のキャンパスから、二十一世紀の歴史を飾る新しい文化や創造的な人材が次々と生み出されてくると確信いたしております。またそれが、この新しい大学の開設をご支援いただきました世界中の多くの方々の期待であると、私たちは自覚しております。

私たち立命館アジア太平洋大学関係者は、この新しい国際大学の基礎を盤石のものにすべく、これから一層全力を集中して努力して参る所存でございます。

これまで本学の開設をご支援いただきました皆様方におかれましては、今後とも本学の動向をお見守りいただき、変わらぬご教示、ご支援をよろしくお願い申し上げます。

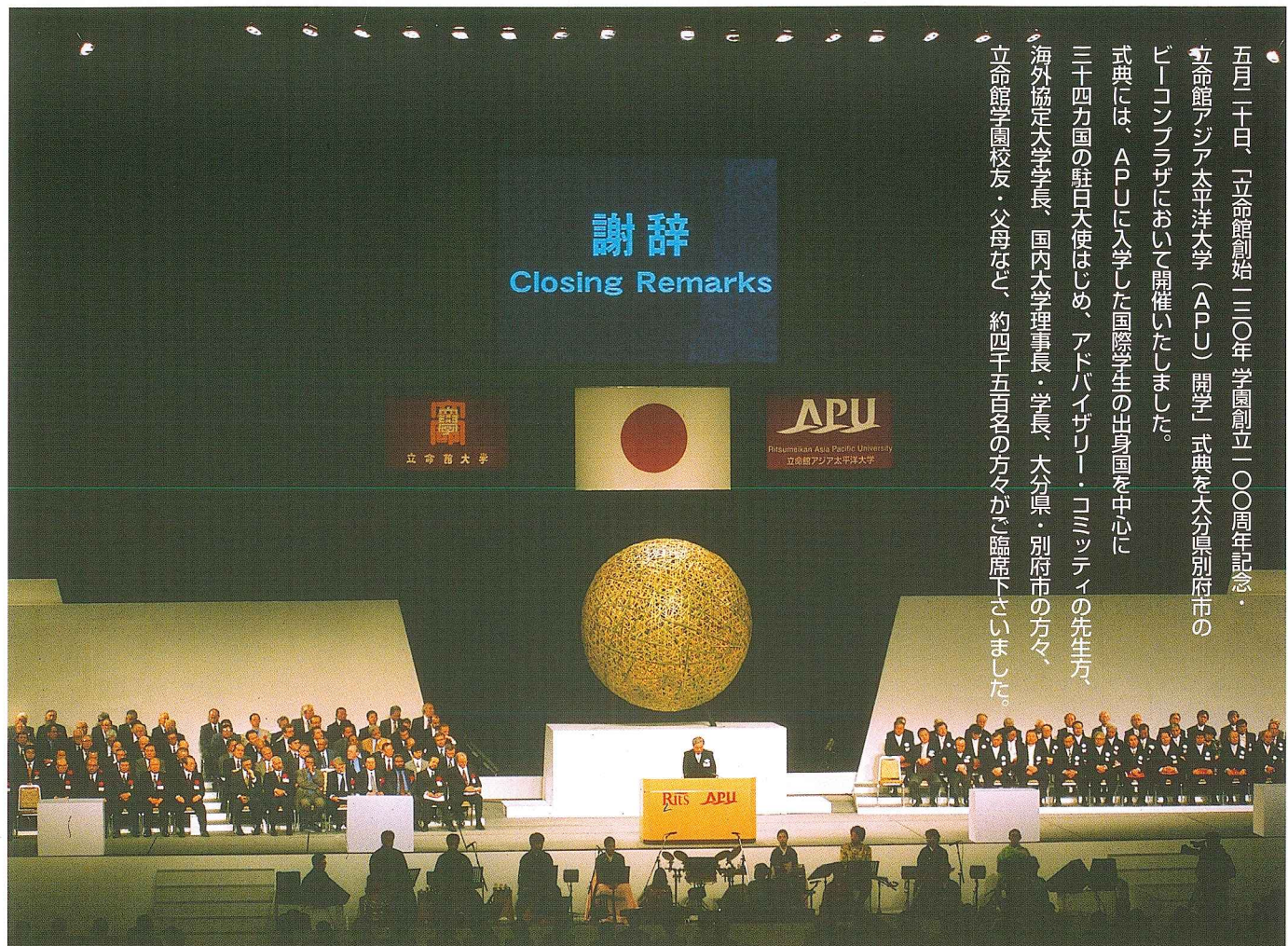
立命館アジア太平洋大学長 坂本 和 一



Ceremony

21世紀への決意、新たに

「立命館創始130年 学園創立100周年記念・立命館アジア太平洋大学開学」式典を挙行。国内外から4,500名がご臨席。



五月二十日、「立命館創始一三〇年 学園創立一〇〇周年記念・

立命館アジア太平洋大学（APU）開学」式典を大分県別府市の

ビーコンプラザにおいて開催いたしました。

式典には、APUに入学した国際学生の出身国を中心に

三十四カ国の駐日大使はじめ、アドバイザリー・コミッティの先生方、

海外協定大学学長、国内大学理事長・学長、大分県・別府市の方々、

立命館学園校友・父母など、約四千五百名の方々がご臨席下さいました。

式典式次第

● オープニング演奏 オークストラ アジア・アンサンブル

● 学園歌 バリトン 片桐直樹

ピアノ 小梶由美子

● 開式 立命館総長・学長 長田豊臣

● 挨拶 国際連合事務総長特別補佐官 ジョン・ラギー

文部大臣 中曽根弘文様

大分県知事 平松守彦様

別府市長 井上信幸様

社団法人日本私立大学連盟副会長・早稲田大学総長 奥島孝康様

社団法人経済団体連合会名誉会長 平岩外四様

● 祝電披露 立命館アジア太平洋大学生代表

● メッセージ 立命館百周年記念映像

● 謝辞 学校法人立命館理事長 川本八郎

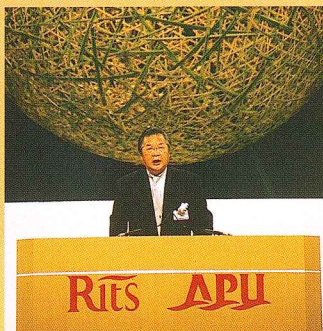
● 閉式

式典は、中国・韓国・日本の伝統楽器で構成されたアジア・アンサンブルのオーケストラ演奏と、バリトン歌手片桐直樹さんの学園歌独唱で開幕しました。

立命館学園を代表し、長田豊臣総長が挨拶にたつたのち、各界を代表し、ジョン・ラギー 国際連合事務総長特別補佐官、中曽根弘文文部大臣（代理 佐藤慎一 文部事務次官）、平松守彦大分県知事、井上信幸別府市長、奥島孝康日本私立大学連盟副会長（早稲田大学総長）、平岩外四経済団体連合会名誉会長より、ご祝辞を賜りました。

引き続き、立命館アジア太平洋大学（APU）に四月に入学した二十八カ国・地域それぞれの代表者が民族衣装などを身にまとい登壇し、大山高君（アジア太平洋マネジメント学部）とシンガポールのティ・シャオ・ブーンさん（アジア太平洋学部）が決意を込めたメッセージを読み上げました。

最後に、立命館学園を代表し、川本八郎理事長が謝辞を述べ、新たな歴史の始まりにふさわしい式典の幕を閉じました。



The Ceremony for the 130th
Founding Anniversary of
"Ritsumeikan", the 100th
Anniversary of the Establishment
of Ritsumeikan Academy and
the Opening of Ritsumeikan
Asia Pacific University



APU学生代表挨拶

■ 大山 高 / アジア太平洋マネジメント学部

私は立命館アジア太平洋大学の学生を代表して、本日のような歴史的式典にご挨拶を申し述べる栄誉を与えられたことを心より誇りに思います。

ご列席のみなさま、今、私たちはAPUという船に乗って、新たな世紀への大航海に旅立とうとしております。これまでの人類史においてなしえなかった真の平和と繁栄を必ず21世紀にもたらすために、アジア太平洋という大海原に向かいます。

私たちは、具体的提案と行動によって、世界を現実的に動かす力を持たなければならないと思います。そのためにAPUにおいて世界中から集まった学生たちとともに、あらゆる文化や価値観を交流しあい、強い個性をぶつけあい、学問研究を通じて互いの見識を高め、強靱な知性としなやかな行動力、そしてどこにいて

もネットワークを形成できる力を身につけたいと思います。

これまで幾多の困難を乗り越え、営々と100年にもおよぶ航海を続け、APUの旅立ちを準備してくださった23万名におよぶ立命館学園の先輩のみなさま、どうかこれからは私たちに対する厳しくかつ暖かいご指導をお願いいたします。

また、本日ご列席の日本政府および国際機関・世界各国地域を代表する大使・学長のみなさま、アドバイザー・コミッティのみなさま、大分県民、別府市民のみなさまに感謝を申し上げつつ、今後とも私たちを激励していただきますようお願い申し上げます。

21世紀には、国際社会に対して、「大きなプレゼント」ができるよう学生一同努力することを決意して、挨拶とさせていただきます。

■ Tay Seow Boon (シンガポール共和国出身) / アジア太平洋学部

Good afternoon distinguished guests, ladies and gentlemen.

We are here today to mark the very special events of Ritsumeikan's Centennial as well as the official opening of Ritsumeikan Asia Pacific University.

APU attracted much attention from the media and the Japanese community even before the Entrance Ceremony in April, with its unprecedented numbers of international students. Living in AP House, I sometimes forget that I am in Japan. Rather, it is like a miniature United Nations and significantly, symbolizes the rapidly globalising world community. In fact, it was only in AP House that I have come to realise that it is possible to keep a conversation going using 3 or more languages!

Having come from Singapore, a country known for its cultural and racial diversity, I can well understand APU's goal to create an environment in which freedom, humanity, peace and mutual international understanding are promoted through cultural exchange.

The Asia Pacific region, with its numerous races and cultures, is particularly

vulnerable to racial conflicts. Therefore, in-depth understanding of the region is critical if we wish to tap its vast potential as an economic and cultural hub, and it is this knowledge that I, and doubtlessly many others, wish to bring with me when I leave APU. Of course, we also hope to bring with us other forms of knowledge, like how to cook cuisines from all over the world...

My experience here have been nothing short of exciting and enriching and I know it will continue to be so. Though everyone around me was skeptical when I first decided to enter APU, I was, and am, confident that I can look back in future at this road I have chosen and say, "No regrets!"

Whatever our future career paths, wherever we go from here, I know that we will be able to pass on to the world what the school gave us. I know too, that we, the inaugural batch of students gathered here in Beppu, will establish a tradition of multi-culturalism that will stay with APU all though its years.

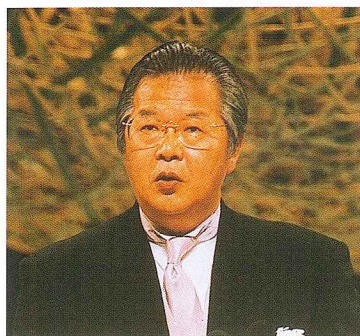
Thank you.

Commemorative Celebrations in Beppu, Oita



立命館総長・学長

長田 豊臣



NAGATA Toyo Omi

Greeting from Ritsumeikan

スト、後のフランス首相となるクレマンソーの諸氏と交遊を結び、わけても一八七一年のパリ・コミューンの激動を目のあたりにして、新しい時代の「胎動」と息吹をその若い精神と肉体にしっかりと刻み込んで帰国しました。帰国後は「東洋自由新聞」を拠点に自由民権運動をリードし、世界主義、国際主義の重要性を鼓吹したことはよく知られています。中川小十郎はこの公望の思想と理念を本学の建学理念として受け継ぎ、また公望の令弟、大阪の住友吉左衛門を中心とする当時の開明派財界人諸氏の財政支援のもと本学を開学したのです。

それゆえ、われわれの喜びは、西園寺公望の精神を百年にわたって脈々と受け継いできた本学が、本格的ボーダレス時代への幕開けを画する二十世紀から二十一世紀へのこの転換期に、今回はアジア太平洋を中心とする世界の有為の青年の為の、わが国初の本格的国際大学、立命館アジア太平洋大学を各界の皆様方のご支援のもと、ここに開学することができたことであります。

申し上げるまでもなく、今日、交通や通信部門における驚異的な技術革新の結果、所謂グローバルイゼーションが急激に進展し、世界は日々狭くなりつつあります。そのなかで従来の国境や狭い国益のみを中心とする二十世紀的価値観と行動様式は大きく揺らぎ始めています。

もし、二十世紀が個人を中心とするリ

ベラリズムの世紀であったとするならば、恐らくは二十一世紀は多様な価値観や様々な文化の「許容と理解」によって成り立つ共生の時代となるでしょう。もっと厳密に言うならば、ここで言う共生の時代とは、とりもなおさず、対立、異質、多様性を前提とした上で、どうその多様性を人間社会の豊かさの資源に転化していくことができるかを探り、努力する時代なのです。

われわれは、アジアと西洋、オリエンタルとオキシデンタルの二分法、さらには開発途上国と高度成熟国の二分法を超えて、共生と共存の所謂SUSTAINABLE DEVELOPMENTを保証する世界秩序を創り出さなくてはならなくなっております。

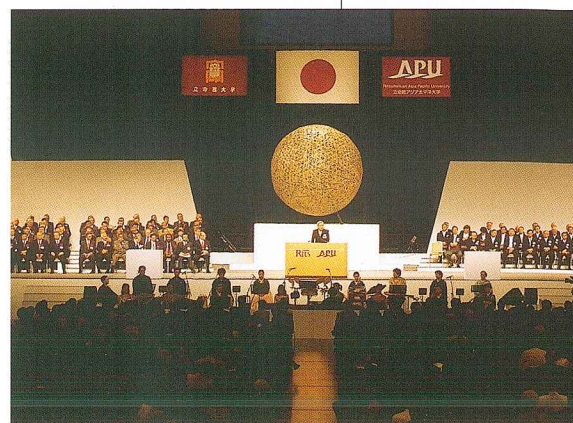
このような二十一世紀の時代的要請に応えて、新しい時代の価値観と共生の作法をさぐり、そのための知的訓練と方法論の構築を、さらにはそれに基づく人材養成を目的としたアーリーナのひとつを、アジア太平洋を中心とする世界の青年に提供しようとするのがこの大学の建学の理念であります。

このような大学が、ここ大分、別府の地で多くの人々のご支持とご協力のもとにひとつの現実となったのです。しかも、それが「民」の活力に依存するいち「私立」の教育機関によって、また、県や市という地方自治体によるご支援と、時代

そして行政のリーダーの方々のご協力によって、ここに一つの確かな現実となったことに計り知れない意義があるとわれわれは考えます。

また、この立命館アジア太平洋大学が東京や京都でなく、九州、大分の地に開学されたということの意義も、ここで強調しておきたいと思っています。ここ九州はアジアに最も近い場所であるだけでなく、歴史的にも日本のアジアへの扉としての役割と位置をもち続けてきた場所であり、決定的に重要な場所なのであります。

それに加えて、この立命館アジア太平洋大学の試みが、自由で個性ある「民」のエネルギーに依拠したより柔軟でダイナミックな高等教育政策へのわが国の転換の一つの機会となることをわれわれは強く期待しております。そしてそのことが今まさに大きな変革の時期に直面している日本の高等教育機関に社会の現実に対する真の意味でのアクチュアリティを回復していくための重要な契機となるであらうことを、われわれは確信します。



◆「立命館創始一三〇年・学園創立一〇〇周年記念/APU開学」式典
ご祝辞

夢と将来性に満ち満ちたプロジェクトをかくのごとく現実のものとするうえで、大胆な決断とご協力を惜しまれなかつた平松知事に代表される大分県、井上

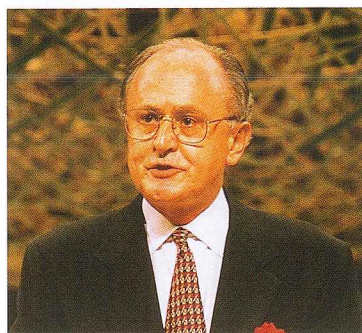
市長と別府市、そして陰に日向にご支援・ご協力をいただいた社団法人経済団体連合会名誉会長平岩外四先生やアサヒビール株式会社名誉会長樋口廣太郎先生

をはじめとするアドバイザリー・コミッティの先生方に深く感謝の意を表します。また立命館アジア太平洋大学の創設にかかわって、申請から認可に至るまで、

適切にご指導いただいた文部省に対しましても厚くお礼申し上げます。学園の決意表明とお礼の言葉に代えさせていただきますと存じます。

国際連合事務総長特別補佐官

ジョン・ラギー様



John Ruggie

Congratulatory Speech

学長、来賓の皆様、そして、ご列席の皆様。

私は、別府市、日本そしてすべてのアジア太平洋地域の諸国にとっても非常に特別の意味を持つこの式典において、コフィ・アナン国際連合事務総長からの最も親愛なる挨拶と祝意とをまず皆様方にお届けしたく存じます。

本日、皆様方は三つの非常に重要な達成を同時にお祝いしているわけでありま

す。すなわち、京都における百三十年前の西園寺公望公による立命館の創始であり、百年前の同所における立命館学園の

創立であり、そして、高等教育と国際理解のためのきわめて斬新な試みである立命館アジア太平洋大学の公式的な開学であります。

その当初より、立命館は、日本の歴史において一つの実り豊かな役割を果たしてきているということが出来ます。すなわち、自由の哲学に根差した民主主義、

共通のヒューマニティー、そして平和に向けられた声がそれです。その著名な政治生命の過程において、西園寺公は、自由主義と国際主義とを標榜され、これらの進歩的な原理の発揚を求めました。大学として、立命館は、何世代にもわたる日本の学生のため、高度に成功した教育的経験の中にそれらの原理を体現してきました。

アナン事務総長は、本日、私がおここに出席して、立命館の過去におけるさまざまな達成を慶賀すると同時に、今ここにおいて皆様方が取り組もうとしている新たな使命に対しても賞賛と支持とを皆様にお伝えするように、と申しております。立命館アジア太平洋大学は、お互いについて、また、我々のこの小さな地球において営まれている分かち合いの生活について共に学ぶことによって、様々な人々

を教育する大学です。現在のようにグローバルゼーションが進行し、全世界を通じて前例のない相互依存が必要である時代において、皆様方はより大きな相互理解・尊重に貢献しているのであり、それによってこそ共通の目的を追求する人間の能力が協働することができるかどうかが決まるものなのです。

立命館アジア太平洋大学の開学は、日本が世界において果たしている重要なリーダーシップの役割を反映するものであり、それはマルチラテリズム（多方向主義）を支持し、世界の貧困と戦うものであり、平和的手段によって国際的・国内的紛争を解決するために役立っているのです。このような日本の役割が最も評価されている場所が国連であり、また国連事務総長ご自身がそのことを最も高く評価しているのです。

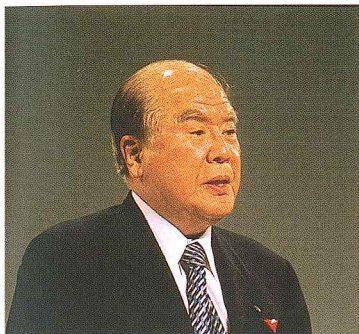
本日ここにお集まりの若い友人の皆様に対して、私は申し上げたいのですが、以上で述べた挑戦の多くは依然として解決されていませんし、新たな問題が毎日のように生じてきているのです。皆様や私など、また工業化された諸国の市民の多くが、比類なき富を享受している一方で、途上国の兄弟姉妹の半数が、一日四

百円程度で、また十二億人が一日二百円未満の生活費で生存のための試練にさらされているのです。全人類の五分の一が、安全な飲料水を利用することができません。戦争は、依然としてあまりに多くの貧国を破壊し続けています。サブ・サハラのアフリカでは、エイズ（HIV/AIDS）の急速な蔓延が、健康と寿命における全世代の増加価値を逆転させようとしています。そして、その流行は世界の他の部分にも広範に拡大しているのです。さらに、まさしくグローバルゼーションの諸勢力や情報技術革命が世界を変えつつあると語る場合においても、東京にはサハラ以南のアフリカにおけるすべての電話台数以上の電話があり、アメリカ合衆国にはその他の世界をすべて合わせたより多くのコンピュータが存在している、ということを我々は忘れてはなりません。

皆様にお願ひしたいことがございます。それは、皆様自身が今日とは異なつた明日を作るために今日の一日一日をご精進いただきたい、ということです。国際的な大学の学生として、その他の違いがどのようなものであるうとも、我々すべてが一つの人間家族の一員であるということを、皆様は何人にもましてご存知

Congratulatory Speech

大分県知事 平松 守彦 様



HIRAMATSU Morihiko

本日は、世界各国の駐日大使、平岩外四様はじめ我が国経済界を代表する方々、立命館大学校友会の皆様をここに大分県別府市ビーコンプラザにお迎えし、立命館創始百三十年及び学園創立百周年並びに立命館アジア太平洋大学の開学記念式典を迎えるにあたり、地元知事として皆様を歓迎申し上げ心からお慶び申し上げます。

大分県はかねてよりアジア太平洋地域における人材育成の拠点としての大学の

誘致設立に努めておりましたが、平成七年九月に立命館アジア太平洋大学を本県に新設することを公表して以来、関係者の皆様方の多大なご支援をいただきながら、当初の予定どおり本年四月に開学を迎えることができました。立命館の川本理事長、長田総長、坂本APU学長をはじめ、設置事業に携わられました関係者の皆様方にはさぞかし感激もひとしおのことと心からお祝い申し上げます。

また、これまで多大なご支援を賜りま

した、国内外の第一線で活躍のアドバイザリー・コミッティの委員の皆様や国連のラギー事務総長特別補佐官、文部省の佐藤事務次官、阿南内閣外政審議室長をはじめとするご来賓の皆様、井上別府市長や県議会、市議会、経済界など地元の関係者の皆様方に対しまして改めてお礼申し上げます。

十六世紀キリシタン大名大友宗麟時代、フランシスコ・ザビエルに伴われて二名の留学生が大分の港を出て、ポルト

Congratulatory Speech

文部大臣 中曽根 弘文 様



(代理 佐藤禎一文部事務次官)

本日、ここに、立命館アジア太平洋大学開学記念式典が挙行されるに当たり、一言お祝いの言葉を申し上げます。

立命館は西園寺公望先生が「自由と清新」という精神の下に開かれた私塾「立命館」を淵源とし、明治二十三年にその名称と精神を受け継いだ中川小十郎先生によって「京都法政学校」として創立されました。その後、明治、大正、昭和、そして平成の今日を迎えるまで二世紀にわたって時代の変化に的確に対応し、数多くの人材を世に輩出してこられました。

二十一世紀の来るべき地球社会を展望する時、アジア太平洋地域の平和的で持続可能な発展と、人間と自然、多様な文

化の共生が不可欠であります。

今回開設されました「立命館アジア太平洋大学」では、「アジア太平洋学部」と「アジア太平洋マネジメント学部」において、学生の半数を占める世界約五十カ国・地域からの留学生と国内学生との交流、英語・日本語の二言語を併用した、斬新な教育システムの構築などにより、日本とアジア太平洋、アジア太平洋と世界を結ぶ「知」の拠点を目指しておられます。

これら一連の大学改革への取り組みは誠に意義深く、また、時宜にかなったものとして、各方面から大きな期待と注目が寄せられているところであります。

今後、本学が、大学の理念として掲げられた「自由・平和・ヒューマニズム」「国際相互理解」「アジア太平洋の未来創造」の実現に向け尽力され、国際社会に貢献する大学として、発展されますことを、心から希望するものであります。

終わりに、本学の開設に至るまでの、理事長、総長、学長をはじめ、関係の皆様方の御努力及び地元大分県、別府市の御支援に対し、深く敬意を表しますとともに、今後も一体となって、本学の輝かしい未来を築き上げられますよう祈念いたしまして、お祝いの言葉といたします。

だと思っています。我々は、ある一部の人々のためではなく、すべての人々にグローバルイノベーションが恩恵をもたらすような世界に向かう道を皆様が進まれるよう期待しています。そのような世界とは、平

和と安全が少数の者のためではなく、多数の者のために定着することとなり、特権を持った者だけにでなく、あらゆる人間に対してあらゆる場所で機会というものを与えられる世界なのです。

これらの諸価値のためにこそ国際連合が存在するのであり、また立命館アジア太平洋大学が標榜する価値もそこにあるのです。それらを現実のものとするため、一緒に努力しましょう。

最後にもう一度お祝いの言葉を申し上げますと同時に、皆様方のご健勝を祈念する次第です。

Congratulatory Speech



INOUE Nobuyuki

井上 信幸 様

別府市長

ガルに出帆しました。日本で初めての留学生であります。

別府湾を一望に見渡す地に建つ近代的で自然と調和した新しいキャンパスには、すでにアジア太平洋地域をはじめ世界の多くの国々からの留学生や国内の学生七百名を超える若者が集っており、アジア太平洋学の樹立を目指す殿堂の完成に、期待が膨らむ思いです。
これもひとえに、本日ご臨席の皆様方

のお力添えの賜と重ねて厚くお礼申し上げます。

さて、来る二十一世紀は「アジアの時代」と言われています。本県は、「アジアとの共生」を目指し、二〇〇二年ワールドカップの日韓共催やアジア九州地域交流サミットの開催など、アジアとの交流を積極的に推進しているところで、

このような中、立命館アジア太平洋大学が開学されましたことは、本県がアジ

ア太平洋地域の人材養成の拠点として飛躍するための大きな一歩となるとともに、国際交流、観光交流の上からも大きな役割を果たすものであり、別府市のみならず、大分県、九州の活性化、さらには二十一世紀の新しい日本創造に大きく役立つものと期待しています。

立命館におかれましては、世界に誇れる地域に愛される素晴らしい大学づくり、「グローバルに考え、ローカルに行動す

る」人材づくりに邁進していただくよう期待申し上げ、県といたしましても、今後とも引き続き強力に支援してまいりたいと考えています。

立命館、学園並びに立命館アジア太平洋大学の更なるご発展を祈念申し上げます。ごあいさつとします。

本日は誠にありがとうございます。

だいた皆様、この機会に、大分の豊かな自然とその自然が育んだ『一村一品』の料理を味わっていただきたいと思います。

その後、日本一の温泉であります別府の温泉にゆったりと浸かっていただき、おくつろぎのひとつときをお過ごしください。幸いです。

また、お時間が許せば、温泉情緒溢れる別府の町を散策していただければうれしく思います。

最後になりましたが、学校法人立命館の今後の益々のご発展とご繁栄、ご出席の皆様のご健勝をお祈り申し上げます。ありがとうございました。

地元十三万別府市民を代表いたしましたし、お祝いのごあいさつを申し上げます。学校法人立命館関係者の皆様、ご来賓の皆様、立命館創始百三十年、学園創立百周年、そして立命館アジア太平洋大学開学、誠におめでとうございます。まず、この栄えある世紀の祝典をわが別府市で開催いただきましたことを、心から厚くお礼申し上げます。また、日本に例を見

ない、本格的な国際大学であるAPUの本市開学に当たりまして、多方面にわたるご尽力を賜りました川本理事長はじめ立命館関係者、文部省、APUのアドバイザリー・コミッティの皆様、平松大分県知事に対しまして心からお礼を申し上げます。

おかげをもちまして、わが別府市は、アジア太平洋の時代といわれる二十一世紀に向けて、市政の重要な柱の一つであります、「国際化」の道を力強く踏み出すことができました。私は去る四月三日に、APUの入学式にお招きをいただき、祝辞を述べさせていただく栄に浴しましたが、美しいキャンパスに集う、世界各地からの若い皆さんの希望に満ちた、明るい姿に接して、これこそわが別府の新しい時代の到来を告げる象徴であると、深い感動を覚えたのであります。

あのケネディ大統領が言われた「この世に大学ほど美しいものはない」という言葉を、あの時ほど実感したことはありません。美しい学舎は立命館の逞しい伝

統から生まれた、二十一世紀の精神「国際貢献」から生まれたものであります。ここに私はまた、貴学の長年にわたる高等教育機関としての優れた伝統と信念の象徴を感じて胸を打たれたのであります。日本近世史上稀に見る大政治家であり、また卓越した文化人であられた西園寺公望公を学祖に仰ぐ、立命館精神が、ミレニアムに花咲かせたのがAPUであります。APUはまた、別府市はもとより大分県の、そして日本の貴重な財産であり、私たちは立命館と協力しながら、この財産を大事に育て、立派に花咲かせようと考えております。

立命館はこれまで各界に優秀な人材を数多く送り出された日本有数の名門学園であり、その波がこれからはさらに国際的に幅広く広がっていくとしております。こうしたことを考えると、学校法人立命館の前途はまことに明るく、本市も貴学の発展のために、いささかでもお役に立ちたいと考えております。

遠方からこの祝典のためにおみえいた

Congratulatory Speech



HIRAIWA Gaishi

平岩 外四様

社団法人経済団体連合会名誉会長

立命館創始百三十年・立命館学園開設百周年のこの良き年に、九州の別府のこの地において、立命館大学が新しい二十一世紀へ向かつて築かれた橋頭堡であります立命館アジア太平洋大学を開設され

Congratulatory Speech



OKUSHIMA Takayasu

奥島 孝康様

社団法人日本私立大学連盟副会長
早稲田大学総長

ましたことを、私立大学連盟加盟校を代表し、また、同じ志をもつ早稲田大学を代表して、心からお祝いを申し上げます。

いま、立命館大学がこのアジア太平洋大学に結集された力というのは、二十年前ころからの立命館大学の真にイノベティブな精神と気概、そして、大学拳げての組織力と行動力とによるものであり、この新しい大学にその力が見事に結実したというふうに、私たちには思えます。

立命館大学は、日本の私立大学のなかでも、いまや最もイノベティブな精神に満ち、そして、真に独創的な学問研究の在り方を追求されている大学であり、そして、その精神はアジア太平洋地域に大きく翼を広げて、二十一世紀への果敢なトライをなさっている立命館大学のそ

の姿勢は、全私学、否、日本の全大学にとつてもひとつの模範とすべき方向性であると、私は確信いたしております。

私は、半年前、別府湾を見下ろすあの高台から、水平線の彼方を見ながら、なるほど、こういうところにおいて、アジア太平洋の未来を見つめ、昂然の気を養い、そして、新しい未来を創って行こうとされているのだという、この立命館の方々のお考えというものを胸中深く感得し、そして、誠に同慶に堪えないという思いを持ったわけであります。

立命館大学が目指されております、アジア太平洋地域における研究教育のひとつの拠点が、かねて私どもも考えておりますアジアにおける学問研究の「[奥島]であるこの九州の地において展開されるということ、私たちが近く北九州市に進出しようということを考えているおり

から、また、かねて九州一國出島論を唱えている私個人にとりましては、誠に、共鳴するところ大なるものがあります。

しかし、何れにいたしましても、こういう誠に目にも鮮やかな形でもって、二十一世紀に向かつて、その高い志をお示しになった立命館の方々の構想力とその実行力、そして、未来にかける大きな夢というものに対し、私は重ねて、同慶の念を述べ、心からなる敬意を表し、そして、私たちもまたその後に続けたい、こういう真情を吐露致しまして、言葉は足りませんけれども、立命館アジア太平洋大学のこの地における開学を、心からお祝い申し上げる次第であります。

おめでとうございます。

本日は、立命館の創始百三十年、学園創立百周年、立命館アジア太平洋大学開学の式典にお招きを賜り、大変光栄に存じます。

このように盛大な式典が、内外からの多数のご出席を得て開催されますことを心からお祝い申し上げます。

立命館は、この百年の間、わが国の私学を代表する教育機関として、常に改革を進め、これまで多くの有為の人材を輩出されました。とくに戦後の立命館の充実と発展は目覚ましく、その実績には輝かしいものがござります。そして特筆さ

れるのは、この度の立命館アジア太平洋大学の開学であります。

立命館アジア太平洋大学の開学に際して、その場所に最もふさわしい処として、百年の伝統と歴史を有する立命館の所在地京都ではなく、この大分県別府市が選ばれましたことは、平松知事を始めとする大分県民の皆様、井上市長を始めとする別府市民の皆様のご決断によるものと、心から敬意を表する次第でございます。

今日、世界の中で、多くの課題を抱えながらも発展が期待され、希望に満ちた

地域の一つはアジア太平洋地域であります。この地域は、豊かな資源や自然環境に恵まれ、加えて未だ発掘されていない優れた人材の宝庫でもあります。そうした中で、二十一世紀のアジアと世界の将来を考えると、いま必要なのは、国際感覚を持ち、この地域の平和と繁栄を実現していくことのできるリーダーであります。他の地域や国々の多様な文化と価値観を理解する力を持ち、物事を多面的に見ることのできる優れた人材であります。

一方、日本の大学も、経済成長とともに

に複雑化した社会に的確に対応しうる人材の養成と、そのためのシステムの改革が求められております。その意味で、次の世紀に向かって歴史を継承していく私たちは、二十一世紀を担いうる人材を育成する本格的な国際大学の開設を待望してまいりました。

このような中で、開学されました立命館アジア太平洋大学の目的と構想は、非常に壮大であり、いわば国家的事業であると申せます。地方自治体と私学が一体となり、これを民間企業が支援し、さらにアジア太平洋地域の各国の協力を得て創り上げるところに、新しい積極的な意

味があると考えます。是非、このアジア太平洋大学に、多くの国の関係者が関心を持っていただくことを切望致します。それが、日本の高等教育発展のためにも必要なことと信じております。

に、未来志向の立命館アジア太平洋大学のこれからの成功を心よりお祈り申し上げます。本日のご挨拶と致します。

◆「立命館創始二二〇年・学園創立一〇〇周年記念/APU開学」式典 謝辞

学校法人立命館理事長

川本 八郎



KAWAMOTO Hachiro

国内外で、重要な任務を担っておられるご来賓の諸先生方をはじめ、皆様方に、心より御礼申し上げます。各界を代表して、ご来賓の先生方から我が学園に対し、心温まるご祝辞を賜り、ありがとうございます。申し上げます。

式典の終わりにあたりまして、学校法人立命館を代表して、御礼のご挨拶を申し上げます。

本学、創立百周年記念式典、立命館アジア太平洋大学開学式典に、かくも多くの皆様が、ご多忙にもかかわらず、日程をご都合いただき、また、遠路より足を運んでいただき、まことにありがとうございます。

一九〇〇年五月十九日、京都法政学校として中川小十郎が、立命館大学を開学し、いま、私どもは百周年を迎えることができました。私学立命館百年の歴史は、必ずしも恵まれた月日ばかりではありませんでした。私どもの先達が歩んで参りました道は、その時代時代の多くの皆様方からご支持をいただきつつ、山また山を越え、谷また谷を渡って、私学危機克服の歴史であつたといつてもよいかと思えます。

例えば、危機の一つは、第二次世界大戦直後における我が学園存亡の危機でありました。この危機を克服した教訓は、新しい我が国の在り方を見定めつつ高等教育機関のひとつとして、社会的責務を果たしていく長期的方針と体制を樹立し

たことにありました。

第二の危機は、皆様もご存じのとおり、一九六〇年の末から一九七〇年代はじめの、あの嵐のような学園紛争であります。本学の学園紛争解決の教訓は、教育・研究機関である大学においては、一切の暴力、一切の暴力行為は許さない、暴力は理性の喪失であります。したがって、それは、人間の敗北であります。そういう原則的考え方を全学の共通の認識に高めたことが、教訓でありました。私の持論でございますが、田畑をはなれて、鋤鋤を捨ててならば、農民は農民たりえない。船と網を放棄して漁民たるところはない。同じように大学というところにおいて、教室を破壊し、研究室を占拠し、教育・研究活動を停止するならば、そこには大学は存在しないのであります。きわめて厳しい状況のなかで、我が学園の教職員と学生諸君は、大学の生命である教育・研究活動を休むことなく、責任ある実践を遂行してまいりました。これが、私どもの重要な教訓のひとつであると思

っております。

我が学園の特徴を述べさせていただきますと、ビデオでも紹介させていただきましたが、本学は教学の最高責任者たる総長の選挙、および各学部・学部の責任者たる学部長の選挙への学生参加を認めております。学生参加による全学協議会によって、我が学園の基本的方針を議論してまいりました。このように学園における学生の位置を一貫して重視してまいりましたのが、我が学園の歴史的事実であります。学生を常に視点の中心に据えるということは、学園構成員の統一を促します。学園の活性化を呼び起こします。学園の経営を明朗にする源泉であります。一九七九年より、私どもは今日まで一連の長期計画を策定し、その計画を実行してまいりました。新しい学部の開設、学部の拡充移転、附属校の増設、そして、本年四月、ここに、立命館アジア太平洋大学を開学することができたわけであり

ます。取り組んでまいりました諸事業を振り



●「立命館創立一三〇年・学園創立一〇〇周年記念/APU開学式典」祝賀会祝辞



木田 宏様

財団法人新国立劇場運営財団顧問
元文部事務次官

歴史と伝統を誇る立命館が、この度開学された立命館アジア太平洋大学の発足を、大学改革の積極的な柱として、国際社会に羽ばたこうとしておられます。先の式典において、このことは明確にうかがうことができました。誠にめでたうございました。

このアジア太平洋大学は、ここに迎える留学生数の規模において、また、五十カ国に及ぶその広がりにおいて、わが国にこれまで類の無かった本格的な国際大学であります。

この大学の成否は、そのまま、アジア太平洋地域の

返りまして、教えていただいた教訓は多々あります。社会と時代を可能な限り、正確に認識し、政策を策定することであり、いかなる事態であっても、大学としての生命である、教育・研究の充実を守ることであります。また、学生をつねに学園の運営において、視点の中心に据えることであります。アジア太平洋大学の創設を決断いたしました理由は、これらの歴史的教訓と合わせまして、教育研究に携わる私どもといたしまして、未来への熱き思いであります。

私どもは、いま、二十一世紀を手の届くところに迎えようとしております。それぞれの場から、二十世紀を部分的・一面的ではなく、総合的・全面的に総括をしながら、日本国として、日本の国民として、世界の国々と世界の人々に、真に日本と日本国民として、信頼される営為と誇り高き行動を展開しなければならな

いと思います。アジア太平洋大学の開設は、世界諸国民のなかで、国際的貢献において、名譽ある位置を目指そうではないか、目指したい、目指していこう、という私どもの熱き思いであり、願ひであります。立命館の教職員は、全力を尽くして、新しい世紀に向けて、邁進する決意であります。大学、高等学校が、真にその使命を果たすためには、多くの方々のご理解・ご支援なくして、その責務を果たすことが不可能なこともまた明白であります。

文部省のご指導とご援助、各大学が本学にお寄せいただきました変わらぬ友情と連帯、大分県、京都府をはじめとします地方自治体のご協力、河原会長をはじめとして二十三万卒業生諸氏の後輩に対する愛情と母校愛、垣内会長と三万名学生の父母の皆様のご支援。本学が百年の年月を歩一歩と進んでまいることが出来

ましたのは、多くの方々の歴史的な協力があったことであります。

立命館アジア太平洋大学に関しては、世界各国からのご支援、我が国の産業活動の中心を担っておられる各企業の皆様、特に、平岩先生、樋口先生をはじめとするアドバイザリー・コミッティの諸先生方の私どもの熱き思いに対するご理解とご協力があつたからこそ、この新しい大学を開学できたのであります。これなくして、開学は不可能であつたと申し上げても過言ではないと思っております。設置形態は、一私学であります。プライベートであります。しかし、多くの方々から寄せていただきましたご厚意とその込められた内容は、パブリックであり、歴史的・社会的かつ普遍的価値であります。私どもは、責務の重大さを改めて痛感するものであります。高い席からではあります、改めて御礼を申し上げます。

最後になりましたが、大分県民、別府市民の皆様、立命館アジア太平洋大学は一貫して、国際的視点で県政を進めてこられた平松知事様、国際文化芸術都市を目指しておられる井上市長様をはじめ、多くの県民・市民の皆様の温かく深いご理解で開学することができました。心から御礼を申し上げます。

当然のことではありますが、過去は現在をつくります。したがって、私どもの今いる現在は過去を包括しております。過去に感謝すると同時に、現在の皆様方の物心両面にわたるご協力に對しまして、重ねて心より感謝申し上げます。今後とも立命館学園に對しまして、変わらぬご支援、ご教示を賜りますようお願い申し上げます。御礼の挨拶とさせていただきます。

本当にありがとうございました。

祝賀会次第

- オープニング 大分郷土芸能
立命館アジア太平洋大学
国際学生によるインド舞踊
- 開会
- 祝辞 財団法人新国立劇場運営財団顧問 木田 宏様
駐日オマーン国特命全權大使
Mohammed Al - Khusaiby 閣下
ソウル国立大学長 Ki - jun Lee 様
- 乾杯 前立命館総長、京都橘女子大学長 大南正瑛
- 挨拶 立命館アジア太平洋大学長 坂本和一
- 閉会



立命館アジア太平洋大学
アドバイザリー・コミッティ名誉委員
アサヒビル株式会社名誉会長

樋口 廣太郎様

立命館創始百三十年・学園創立百周年、立命館アジア太平洋大学開学
おめでとうございます。

西暦一九〇〇年、明治三十三年に、京都法政学校として発足された立命館は、「自由と清新」の建学精神、「平和と民主主義」の教学理念のもとで、わが国の高等教育をリードする私学として、常に社会の要請に応じて前進し、これまでに多数の有為の人材を輩出してこられました。とくに戦後の立命館の充実と発展には実に目覚しく、輝かしいものがございます。その最たるものは、この度の立命館アジア太平洋大学の開学であると存じます。

今から五年前、私が立命館アジア太平洋大学開設のお話を最初に伺った当時は、新しい大学を開設することとそれ自体に多くの困難が想定されました。現実には、この開学までの数年間は、アジア諸国が未曾有の経済危機に見舞われ、日本経済も不況の波に洗われた時期でもありました。しかし、こうした逆境の中にあっても、それをチャンスとしてとらえ、着々と立命館アジア太平洋大学の開学に邁進してこられた方々の「苦勞」に心から敬意を表したいと存じます。

立命館は今、その歴史と伝統に根ざしながら、二十一世紀の国際社会を展望して、わが国で最も積極的に変革を遂げようとしています。その素晴らしいエネルギーは、将来に向けてさらに大きな広がりを見せていくものと確信しています。その変革の柱ともいえるべき立命館アジア太平洋大学は、世界の五十カ国から留学生を迎えるわが国最初の本格的な国際大学であり、わが国の国際貢献の一端を積極的に担うものであります。また、大分県、別府市等の地方自治体とともに、私たち産業界が支援していくという形態がとられ、学界、官界、財界の三者が連携するプロジエクトであるということも、今日のわが国では大変大きな意義があるものと存じます。

立命館の創立百周年記念のお祝いと併せまして、立命館アジア太平洋大学がクオリティの高い大学として広く内外から評価され、新世紀の主役となる有為の青年が多数輩出されることを切にお祈り申し上げます。本日は誠にありがとうございます。



立命館大学校友会
河原 四郎 会長
(大同生命保険相互会社相談役)

本日は全国から大勢お集まりいただき、また地元の方々も大勢ご出席いただいているように聞いております。本場にありがとうございます。

昨年五月から、全国の校友の皆様をお願いいたしまして、新大学に正門を寄贈しようということで、募金運動を展開いたしました。おかげさまで、昨年十二月末現在で、一億円余の浄財を頂戴いたしました。景気の悪い大変な時期のお願いにもかかわらずご協力いただき、無事大学側に寄贈することができました。改めて厚く御礼申し上げます。次であります。

寄贈しました正門は、ここに通います学生諸君が、朝な夕なにその正門を見まして、やがては世界に羽ばたくスケールの大きな人間に成長してくれるものと確信しております。

ご承知のとおり、立命館大学は今年で創立百周年であります。歴史を積み上げ現在に至ったわけですが、この十年、



立命館大学父母教育後援会
垣内 剛 会長
(西日本旅客鉄道株式会社
常務・東京本部長)

ご父母の皆様、本日はご多用中のところ、全国各地から父母教育後援会総会にご出席賜りまして、誠にありがとうございます。

高等教育を取り巻く環境が著しく変化し、教育のあり方が問われている時代にあつて、立命館大学は他大学に先んじて「大学改革」に取り組んでおられます。私は、そのことに誇りを持つとともに、敬意を表するものです。先程の記念式典におけるご挨拶にありましたように、私立大学関係者からも立命館の先進的な取り組みに対して高い評価がなされておられ、あらためてその確信を深めることができました。

大学関係者の大変な努力によって、世間の評価は著しく高まりました。特に、一九九四年にはびわこ・くさつキャンパス（BKCC）が完成いたしました。その手を休めることなく、一九九五年、経済情勢の厳しい最中に、来るアジア太平洋時代を展望し、世界平和の未来を担う人材育成を目的とした立命館アジア太平洋大学を、この別府に設置するという構想が発表されました。大変勇気のある決断を大学が下されたわけでありまして。そして、幾多の困難を乗り越え、また地元の方々の大変なご支援も頂戴いたしまして、大学が完成し、この四月開学したわけでありまして。

今後は、日本人学生と海外から参りました学生が、共にこの学舎に学び、また、さらに生活を共にすることで、連帯感も深まり、真の平和の発展に大いに貢献するものと確信しております。そんな大学に、ささやかながらも我々校友のメンバーも参画できた、支援が出来た、ということを皆様とともに誇りとし、開学を喜びとするところであります。

最後になり恐縮でございますが、土地事情に不慣れな学生が大勢おります。引き続き、地元の方々には大変なお世話になるかと存じますが、どうぞよろしくご支援いただきますようお願いいたします。ご挨拶とさせていただきます。

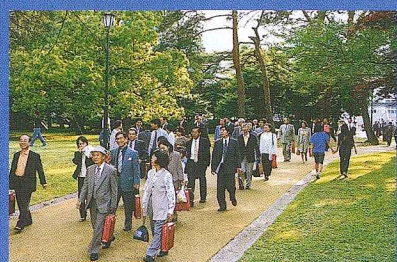
父母教育後援会は、設立後八年を経て、他大学にもまして活発な活動を展開しております。それには三つの理由があり、第一には立命館大学が全国区であり、全国から委員を選出し、全国各地で懇談会を開催していること、第二にフレキシブルな組織であり、会員の皆様の意見をアンケート等によりお聞きして活動に反映していること、第三に元氣のある大学当局に、全面的にバックアップしていただいていること、によるものと考えています。このように父母教育後援会は大変活発に活動しているわけでありまして、このことよって、私達も大学改革の一翼を担っているのではないかと考えている次第であります。

今後とも、父母教育後援会の活動を充実させ、父母の立場から大学の教育活動を支援して行きたいと考えていますので、ご父母の皆様の一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。

Opening Festival

APU開学祭

APU・立命館と別府市民の交流の場、国際色豊かに彩られた別府公園に35,000名が集う。



会場の芝生ゾーンでは、APUの学生達がクラス単位で店舗を開業。韓国のチヂミ、タイ風カレーなど世界各国の料理が楽しめる屋台、貸民族衣装写真館、各国の言語のよるネームプレートの作成など国際色豊かで工夫を凝らした店、三十四店舗が建ち並びました。また、市民の方々が立命館学園校友の店も約百店舗を数えました。また、幼稚園児約千名が協力して縦四メートル、横二メートルの「ネットアート」を作成、完成した巨大画が会場に掲げられると、観客から大きな拍手が起こりました。

あわせて、立命館大学から別府入りした学生のステージ（軽音楽部・応援団など）、APUの学生によるステージ（パラオやインドネシアのダンス・庄内神楽・民族衣装ファッションショーなど）、立命館大学校友会コンサートなども行われ、夕刻まで賑わいました。

記念式典会場（ビーコンプラザ）に隣接する別府公園では、「APU開学祭」が開催され、約三万五千名の別府市民や立命館学園校友などが参加。

APU開学から五十日が経過したこの日、新しい国際交流の芽が京都・別府に根つきはじめたことを実感できた一日でした。



APU OPENING FESTIVAL

開催内容

10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00
		フリーマーケット・アジアンキッチン・APU学生模擬店						
	チューヤンと子供たちのネットアート制作			学生ステージ		校友会コンサート		
		交流ステージ						
		大道芸						
		大物産展						
		「立命館」展						



●APU学生模擬店・アジアンキッチン
APU学生の出店による模擬店ゾーン（34店舗）
アジアンテイストの屋台ゾーン（12店舗）



●「立命館」展
学園100年、APU開学の歩みをパネルで紹介する展示コーナー



●交流ステージ
APU学生を中心に、地元団体を交えてステージを展開



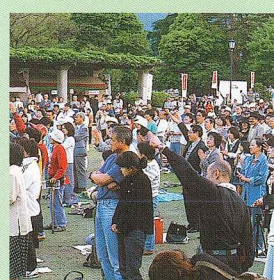
●フリーマーケット
一般公募による大分県民の自由出店ゾーン（77店舗）



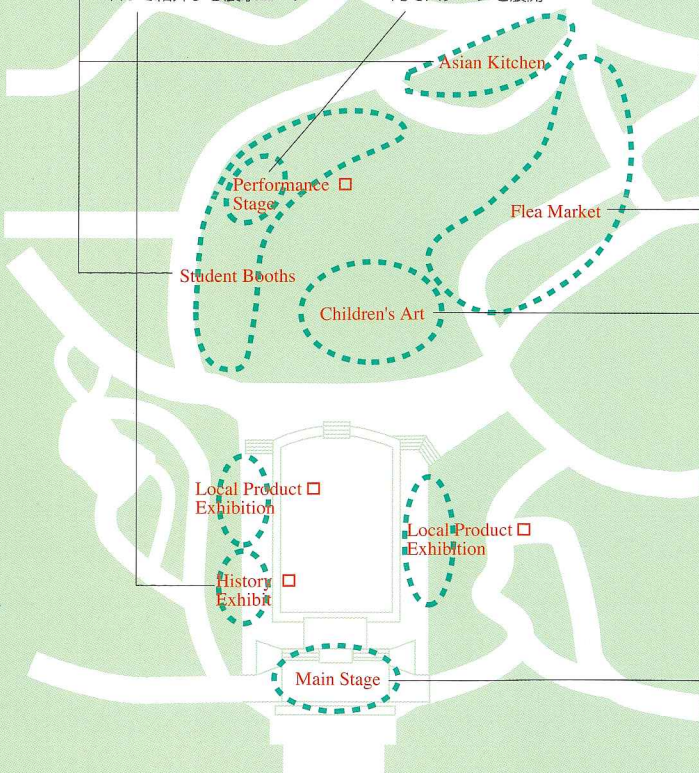
●大道芸パフォーマンス
会場各所で楽しい曲芸や、立命館大学生によるパフォーマンス



●ネットアート
チューヤンと別府市内の幼稚園・保育園児約1,000名がつくる空間アート（参加園：幼稚園17・保育園5）



●校友会コンサート
ばんぱひろふみ・杉田二郎・小室等の出演によるコンサート



Campus Tour

APUキャンパス見学

41万6千平方メートルに8棟が配置、別府湾を見下ろす高台に位置するマルチ・カルチュラル・コミュニティを約5,000名が体感。

5月20日の記念式典のために別府に入られる方々を主な対象として、

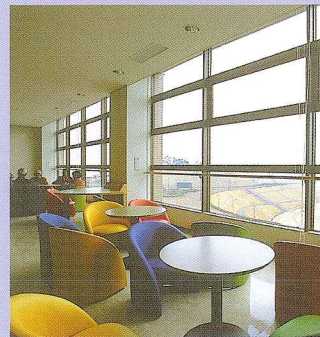
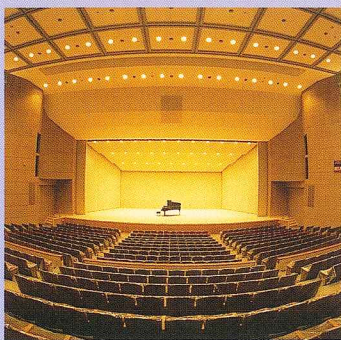
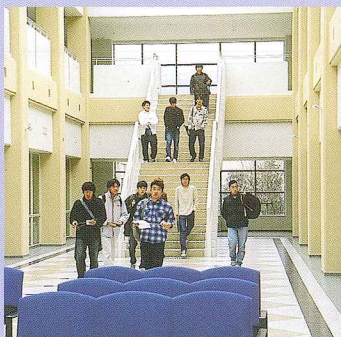
19～21日の3日間、キャンパス見学会を開催しました。



※九州・大分にお立ち寄りの際には、是非APUをご視察いただければと存じます。
学校法人立命館 理事長室（TEL 〇七五―四六五―八三六六）までご一報いただきますようお願い申し上げます。

今回の見学会では、主として、メディアセンター内のアドバイザリー・コミティライブラリーをはじめとする図書館施設、情報処理演習室・マルチメディアラボ・CAI教室、教室棟内の言語ラウンジや茶室、スチューデント・ユニオンの大食堂、体育館などをご覧いただきました。





INTERVIEW

心からお祝い申し上げます。
立命館アジア太平洋大学（APU）の開学は、日本の教育がアジアに向けて開かれていく、重要な一歩だと思えます。日本がアジアの地域の教育の分野でも、より大きな役割を果たされるように願っています。APUの開学を嬉しく思います。



駐日中華人民共和国特命全權大使
陳 健閣下

APU is a great idea and I think it is part of Japan's policy to bring the Asia Pacific region closer together. I'm sure the facilities that I've seen will be put to very good use. I regret that I am not a student anymore. I would have liked to be a student of this University myself.

I think this University should produce students of excellence. It should also produce students who are sensitive to each other's concerns and cultures, and I do hope it will produce friendships between students of different countries.



駐日インド共和国特命全權大使
シッダールタ・シン 閣下

経済環境が非常に難しい時期に、短期間に、しかもこれだけ素晴らしい大学をつくられましたことは、立命館大学のご決断は勿論のことですが、それを受け入れてくださった大分県・別府市、県民・市民の方々のご理解とご協力によるものであると思います。
アジア各国から多くの留学生が来られて新しい教育を行う、これは日本の学生にとっても大きな刺激になると思います。



社団法人経済団体連合会 名誉会長
平岩 外四 様

世界で活躍する人材が多数輩出されるであろうと思いますし、そういう人材の育成を目指して頑張ってもらいたいですね。
大いに支援したいと思っています。



社団法人経済団体連合会 専務理事
和田 龍幸 様



マルチカルチュラル コミュニティ

APハウス(学生寮)での生活始まる

APハウスは主に国際学生を対象にした居住施設であり、個室四二六室を備えています。国際学生は、基本的には一年次は入寮することになっています。また、八人部屋のセミナールーム(一〇室)なども併設しており、マルチ・カルチュラル・キャンパスを代表する施設です。第一期生の国際学生は、レジデント・アシスタント(RA)の国内学生とともに、APハウスでの生活を三月下旬からスタートさせています。

■レジデント・アシスタント(RA)を配置

入学式を目前に控えた三月十七日から三日間、APハウスで生活とともにし、国際学生にさまざまな援助を行う国内新入学生三十五名のレジデント・アシスタント(RA)を対象にRA研修を行いました。APハウスにおける規則や業務内容について学び、その上で寮生へのサポート体制を中心に話し合いを持ち、国際学生の入寮に備えました。研修では、立命館大学の留学生支援グループTISAから約二十名の応援を受けました。

今回APUに入学する国際学生は、日本に初めて足を踏み入れる者も多く、RAや立命館大学からの学生サポーター、また別府市の留学生支援ボランティアグループのメンバーらが毎日二・三回に分け、大分空港や福岡空港まで出迎えに行くピックアップサービスも行いました。三月末、全員が無事入寮を完了し、国際学生にRAの学生三十五名を加えた約三百名の学生がAPハウスで新しい生活をスタートさせました。



▼レジデント・アシスタント(RA)とは

APハウスにおいて、寮生の日常生活を支援するために大学から任命された学生で、APハウス内で生活とともにしています。開学年度は三十五名の国内学生が担当、各フロアを三・四名で担当します。来年度からは、在学生を中心に任命される予定です。

【役割】

- ① 日常的に寮生の相談を受け付け、より良い方向へ導くこと
- ② 生活上のルールをアドバイスすること
- ③ 業務口話をつけること
- ④ APハウス内の各種イベントの企画・運営を行うこと
- ⑤ APハウスミーティング・RAミーティング等の会議に出席すること

RA

張 世然 [ちよう せいぜん] さん

■アジア太平洋マネジメント学部



RAの仕事は、大学と国際学生をつなぐ橋のような役割です。日本の社会に慣れていない国際学生に日本の文化や習慣、APハウスのルールを教え、個人個人の困難を解決するという、国際学生のサポートの全般が仕事になります。

私は東京でも国際学生のサポートをしていましたが、疑問に思っていたことがありました。それは、国際学生たちが日本を嫌いなまま帰国することです。きっと誤解されているのだと思いました。だから、もっと国際学生に接して一緒に住み、生活して日本のおもしろい社会を教えてあげたい

RESIDENT ASSISTANT INTERVIEW

とっていました。

いま、RAとして実際にそれを行っています。確かに大変なこともありますが、勉強は本からだけでなく、経験からもたくさん学べると思えます。RAの役割を担うことで、より多くの国際学生と交流でき、学べると思えます。

一番感激したことは、立命館大学からRAをサポートする学生がきてくれて、深夜3時や4時までミーティングしてくれたことです。初めて会った私たちRAのために熱い心で接してくれたことに感激し、別れるときには泣いてしまいました。今でもメールや電話で連絡は取り合っています。

これからやりたいことは、アンケートをとることです。私たちRAがやってきたことが、どこまで彼らに役立っているのか、何が足りないかを知って、改善したいと思います。

APU版のWe are the worldを作りたい！

■APハウス内の施設設備

APハウスには、各自の居室をはじめ、各階毎のシャワーユニット・共同キッチンのほか、会議場・浴室・インターネットルーム・和室などが設置されています。

インターネットルームは、深夜遅くまで、学習のためのリサーチやEメールを利用する学生で常に満席の状態です。APUの学生へのマルチメディア浸透の深さが明確にあらわれています。会議場は、クラス合宿時のセミナーや各行事の打ち合わせ等に有意義に使われています。また、ロビー内にある和室は、学生の交流が行われるAPハウスのオアシスです。



▲インターネットルーム

■APハウスでの生活

寮の清掃、ゴミの分別回収などはRAを中心に全寮生参加の体制をとり、日本での生活習慣の習得とともに寮生間のコミュニケーションや共同責任意識の確立を目指しています。APハウスは、まさに異文化交流、異文化間コミュニケーション等の生きた教材であり、このような環境で生活している学生自身は、日々様々な問題に直面しながら、「真の国際交流、国際人とは」という問いへの答えを模索しています。

また、全寮生を対象とした直接対話の実施を目標とし、教職員のAPハウス内での学生との懇談会、ミーティング、またAPハウス運営委員会の教職員

の宿泊などを実施しています。学生の実態を詳細に把握し、要望を直接聞くことができ、それらの経験をAPハウスや大学運営の向上に役立てています。

■市民との交流

APハウス内での交流会、理髪業者の方々による国際学生の無料ヘアカットなどさまざまな交流活動が行われ、またAPハウスを発着点とした市民団体主催の無料バスツアー等のイベントもほぼ毎週末に実施されています。こうしたAPハウスを拠点とした交流を通して、市民の方々と学生との相互理解が進んできており、「開かれた国際寮」への一歩を踏み出しています。

また、ゴールデンウィーク中には、五十名を越える国際学生が別府市内のご家庭に、ホームビジットやホームステイをさせていただき、その後も週末の交流が行われています。



▲ロビー



▲和室

RA

中川 詩葉 [なかかわ しらべ] さん

■アジア太平洋学部

RAの仕事のひとつには、「国際電話がつかない。掃除機はどこ？」といった国際学生が困った時に対応することなどがあります。RAに必要なものは「責任感」ともいいますが、まずは社交性、そして体力ですね。

私のフロアはどちらかというと静かで、各個人が自分のことはできるだけ自分でやっています。フロアのメンバーはオセアニアから2人、アフリカから2人、アジア各国・地域から18名の計22名です。共通語は日本語と英語で、日本語しかできない人、英語しかできない人もいますが、それぞれが私の言ったことを訳し合っています。みんなで料理を作って、パー



RESIDENT ASSISTANT INTERVIEW

ティもしました。

みんなとても社交性があって自由な雰囲気のアパハウスです。それぞれが友達を作るのに一生懸命なので、すぐにうちとけることができます。

RAをしていて一番うれしいのは、国際学生たちが信頼感を寄せてくれる時です。RAとしての役割がおわっても、友達としての信頼感に残りますし、いい友達でいれると思います。



千宗室家元が御点前

和心庵 茶室披露



五月十九日、立命館アジア太平洋大学 教室棟内において、茶道裏千家家元千宗室氏からご寄贈いただいた茶室「和心庵」の茶室披露を催しました。茶室披露には、千宗室家元、平松守彦大分県知事、井上信幸別府市長、立命館学園役職者はじめ二十五名が出席しました。

千宗室家元に揮毫いただいた「和心庵」の扁額を除幕したのち、呈茶に移り、家元考案の茶菓子「世界の架け橋」が振る舞われるなか、家元自ら御点前をご披露下さいました。茶室は、北山杉やひのきなど京都から取り寄せた材木が使われた数寄屋造りで、蹲踞（つくばい）を配置した庭園も併設しています。

千宗室家元には、立命館アジア太平洋大学の客員教授にもご就任いただいております。十月からは、アジア太平洋文化理解に関する授業の実践の場としても和心庵を使用する予定です。



■和心庵

茶道は、日本の総合文化であります。その中に、芸術、宗教、哲学、修道、道徳、社交の諸要素を包含しており、言語・宗教・風土の違いを超えた普遍性を有しております。ここに立命館アジア太平洋大学に設置した「和心庵」から、茶道の「和敬清寂」の理念が世界に広がり、世界人類共通の願いである真の平和と幸せのために、少しでもお役に立つことが出来ればと念じております。

利休居士十五代
裏千家家元 千宗室

アドバイザー・コミッティ ライブラリー

Advisory Committee Library



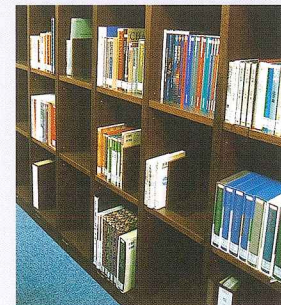
アドバイザー・コミッティ設立当初から構想をすすめ、昨年六月から順次ご寄贈をお願いしてまいりました「アドバイザー・コミッティ ライブラリー」が、五月二十日オープンいたしました。

※今後の刊行物につきましても随時ご寄贈いただければ幸いです。
よろしくお願い申し上げます。

【送付先】

〒六〇三・八五七七
京都市北区等持院北町五六一
学校法人立命館理事長室
電話 〇七五・四六五・八三六六

一九九五年、学校法人立命館・大分県・別府市の三者が、「立命館アジア太平洋大学」の創設についての協議を重ねるなかで、「アドバイザー・コミッティ」の構想は生まれました。



立命館アジア太平洋大学が目指すところ
は、形態、規模、内容において、日本での最初の取り組みであり、時代と社会の要請に応える新しいタイプの本格的な国際大学として発展することが求められています。

立命館アジア太平洋大学が目指すところ
を実現するためには、アジア太平洋地域と世界の現実と動向についての深い理解に立ち、二十一世紀に向け、世界と日本との望ましい関係の構築のために日夜真剣に取り組んでおられる様々な分野の責任ある方々から学ぶことが不可欠であります。アドバイザー・コミッティは、このような考えに立つて設立されました。

アドバイザー・コミッティにご就任いただきました方々からのご支援は、本大学にとりまして何ものにも代え難い財産であります。私たち大学構成員は、アドバイザー

リー・コミッティの方々の理想や経験に学びつつ、立命館アジア太平洋大学が、未来に対する先見性と国際的な視野をもった人材を育み、高等教育機関としての役割を果せるよう力を尽くす所存です。

ご教導、ご支援いただきましたアドバイザー・コミッティの方々に深く感謝の意を表しますとともに、立命館アジア太平洋大学に学ぶ学生諸君が、このライブラリーを活用して先達から多いに学び、世界に翔く人材として成長されんことを願って、「アドバイザー・コミッティ ライブラリー」を設置します。

二〇〇〇年四月一日

学校法人立命館理事長 川本 八郎
立命館アジア太平洋大学長 坂本 和一



平松守彦大分県知事を迎えて講演会を開催 「アジアとの共生 ～ローカル外交と一村一品運動～」



APU開学記念特別講演会が、五月十日、ミレニウムホールを会場として開催されました。講師には、平松守彦大分県知事を迎え、「アジアとの共生～ローカル外交と一村一品運動～」をテーマに講演いただきました。

まず、慈道裕治副学長から、各界の第一線で活躍しておられる方々のお話を聞くことの意義と重要性について説明があったのち、坂本学長が平松知事のプロフィールを紹介し、ご講演がはじまりました。

平松知事には、日本はもちろんアジアを中心に世界各国・地域にまで広がりを見せる「一村一品運動」をはじめとした地方CI戦略の計画から実現までをお話いただきました。また、二〇〇二年の日韓ワールドカップ大分開催の話題についても触れながら、国際交流のあり方について言及され、「地域と地域の交流を今後いっそう密にして相互理解を深めていきたい。二十一世紀のアジア太平洋を担う人材育成を掲げたAPUにも、たいへん期待している」と、熱く語られました。

講演終了後は、活発な質問が出され、平松知事は、「自分たちの地域に何か誇りの持てるものを作ろうということから始めた一村一品運動は、創意工夫の精神から生まれたものといえる。APUで学び、身に付けた知識・経験を自分の故郷に持ち帰る

などして是非活かして欲しい」と学生達を励ました。

最後には、ユニークな質問をした学生達にみんななどの地域特産物や著書を渡す平松知事のパフォーマンスも見られ、講演会は大盛況のうちに終わりました。

東芝 西室泰三社長がご講演 ～Global Market Trend and Toshiba's Challenges～



五月二十四日、株式会社東芝代表取締役社長 西室泰三氏を迎えて、講演会を開催しました。

ミレニウムホールで開かれた今回の講演会は、全て英語で行われ、約五百名のAPUの学生が参加しました。また、この模様は、京都の立命館大学にも同時中継されました。

西室社長は、日本経済を取り巻く最近の環境変化について言及されたのち、日本企業も「クローズド・システム」から「オープン・システム」に経営体制を変化させつつ、「グローバルイノベーション」「IT革命」「経済のサービス化」という三つの経済環境変化の波に敏速に対応していかなければならないと述べられ、アジルマネジメントの必要性を説かれました。

そして、アジルマネジメントへの具体的取り組みとして、役員数の削減やカンパニー制の導入を通じて各部門への権限委譲と独立性の確立などを例として挙げられ、東芝では、これらのドラステックな組織改革によって重電事業部門のIT関連へのシフトなど、経済環境の変化への柔軟な対応が可能になっているとの説明がありました。また今後は、どのようにして企業外部の利害関係者に満足を与え、企業価値をどう高めていくかといった視点で、中期的なビジネス計画として、モバイル・AV・ネットワーク分野の事業開拓に積極的にチャレンジしていきたいと述べられました。

講演の最後には、APUと立命館大学の学生に期待することとして、不断のチャレンジスピリットをもつこと、グローバルイノベーションという時代の要求を敏感に感じ取るセンスをもつこと、国際社会の中でのコミュニケーション能力・コンピュータスキルといった核となる技術を身につけることを挙げられました。

白石白雲齋氏による寄贈作品 「翔鶴」の除幕式



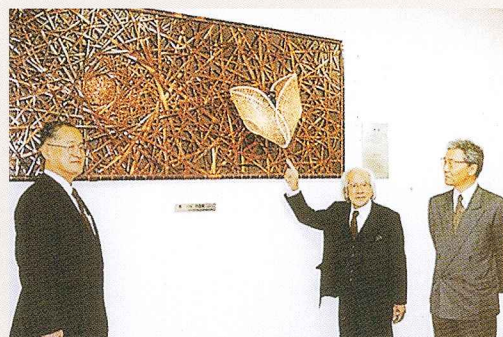
白石 白雲齋 (しらいし はくうんさい)
本名 白石 忠行 (しらいし ただゆき)

【作者略歴】

- 1918年 2月23日別府市に生まれる
高等小学校卒業後 花籠師・父・政利氏に師事して伝統竹芸技術を習得
- 1948年 二代目「白雲齋」を襲名
- 1974年 別府市竹製品新作展最高知事賞受賞
- 1976年 第8回日展に「洞」を初出品 入選
- 1978年 伝統竹芸振興により大分県知事顕彰受賞
- 1982年 別大マラソン大会優勝者(宗茂選手)に竹製優勝カップ「青春」を制作・贈呈
その後 各方面に多数記念作品を寄贈
- 1988年 福岡通商産業局長表彰受賞
- 1990年 大分県知事表彰受賞
- 1992年 勲六等瑞宝章受賞
- 1993年 大分合同新聞文化賞受賞
- 1995年 社団法人日本観光協会より表彰される

三月二十八日、別府市竹細工伝統産業会館名譽館長である白石白雲齋氏からAPU開学を記念して寄贈いただいた作品「翔鶴」の除幕式がメディアアセンタ―(APUライブラリー)一階で執り行われました。

「翔鶴」は、横二・一五メートル 縦一メートルの作品で、すす竹の乱れ編みで鶴見岳(別府市)を、真竹で世界へ飛び立つ鶴(学生たち)をイメージして制作されたものです。



教室棟に「さくら」咲く 寄贈写真除幕式



早嶋 治 (はやさき おさむ)

【作者略歴】

- 1933年 5月7日 京都市に生まれる
立命館中学校・高等学校を経て 1956年 立命館大学経済学部卒業
学生時代は写真部部長として活躍し 世界学生写真展でグランプリ受賞
- 1964年 東京オリンピックポスターは通産大臣賞・イタリアポスター展グランプリ受賞
受賞オリンピック3部作の原画は本学園所蔵
- 1970年 大阪世界万国博覧会EXPO'70ポスター制作
- 1992年 社団法人日本広告写真家協会会長に就任
- 1993年 11月11日没 享年60歳
- 1994年 文化庁より叙勲銀杯及び内閣総理大臣表彰受賞
日本宣伝倶楽部特別賞として「山名賞」を受賞

著書として「早嶋 治広告写真術」1974年 河出書房新社がある
コレクション フランス国立図書館・東京都写真美術館・川崎美術館



三月四日、写真家故 早嶋 治さんの作品「さくら」の除幕式が教室棟のアトリウムで執り行われました。早嶋氏は、東京オリンピックのポスター制作者として知られる立命館大学出身の写真家です。

「さくら」は、APUの開学にあたり、瑠美夫人のご厚意によりご寄贈いただいたもので、縦二・五メートル、横四メートルのモノクロ作品です。



APU

発行：学校法人立命館

〒603-8577京都市北区等持院北町56-1

TEL.075-465-8366 (理事長室)